

# キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

## 「地域での協力伝道のかたち」

「キリストへの時間」協力委員、日本基督教団名古屋北教会牧師 山田詩郎

「キリストへの時間」の特徴の一つに、「地域性」(ローカルであること)があると思います。現在、より広い人に福音を届けるためにはインターネットも用いることができます。にも関わらず、私たちがラジオ放送を続ける意義はどこにあるのか……。その答えとして、私たち協力委員会の構成団体(日本基督教団中部教区、日本キリスト改革派教会中部中会、金城学院、名古屋学院、名古屋学院大学、岐阜済美学院)は、主から中部(あるいは東海)という地域での宣教を託されたメンバーで構成されていると思うのです。

ネット発信すれば、国を超えて、より多くの人に、福音を届けることができるかもしれません。そのような方法での伝道も必要だとも思います(実際、私たちの放送もラジコによって全国で聴取いただけます)。でも、主が私たち各団体を呼び集めてくださり、主のご事業に連らせてくださっていると思う時に、中部という地域性・枠組みを無視してはいけないのだろうと考えます。ゆえに、CBC(中部日本放送)を通して協力できることを感謝します。

毎回の説教者は、どこの教会の牧師・どこの学校の教師であるか紹介されます。この放送を聴いた人が、場所や学校をイメージできることは意味があることでしょう。バーチャルな世界ではなく、よりリアルで、顔と顔を合わすことのできるような関係をリスナーの方と築き上げることができるからです。私たちの目標は、放送を聴いた人が地域教会(リアルなローカルチャーチ)につながってくださること。その意味で、キリスト教学校の存在は大きいと思います。教会だけでは届くことのできない方々に、その存在を知られ、多くの生徒・学生を世に送り出しておられるからです。放送が多くの人にとって身近

なものになっていることでしょう。

私自身、キリスト者家庭で育ったのでもないのに教会に行ってみようと思ったのは、母と姉がキリスト教の学校の卒業生(当時は姉が現役学生)だったこと、その母が教会の幼稚園に入れてくれたことがきっかけになっています。ただ、教会に行ってみようと考え始めてから、実際に足を運ぶようになるまでには一年ほどかかりました(中高生の頃)。その間に何をしていたかと言うと、インターネットでキリスト教ラジオ放送の情報(周波数など)を見つけ、ラジオを聴き続けていたのです(九州在住だったので「キリストへの時間」ではありませんが)。そうしている間に、教会は怪しくない、むしろ、聖書を読みたい、礼拝し、キリスト者の姿も見たい、という思いを育まれていきました。緊張しながら教会の門をくぐったのを昨日のここのように思い出します。一年後に受洗へと至りました。

キリスト教学校・幼稚園で種をまかれ、ラジオ放送で水を注がれ、教会の礼拝に出席するに至る……。リスナーの中にかつての私と同じような方が、背中を押してもらうのを待っておられると信じます。主が、この地域に共に建ててくださった学校と教会。ますます私たちを協力体として一つにし、主のご事業のために豊かに用いてくださるようにと祈ります。この場を借りて学校関係の方々、放送をお支えくださるすべての方々に感謝申し上げます。

「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。……わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。」(一コリント 3:6-9)

## 「イエスさまの呼びかけ」

日本基督教団阿漕教会牧師 加藤幹夫

さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたかいか」と言われた。病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。

(ヨハネによる福音書 5 章 5-9 節前半)

エルサレムの町に入る羊の門のかたわらに「ベトザタ」と呼ばれる池がありました。「その池の水が動く時、池に入ると病が治る」と言われていたため、病を抱えた多くの人々がこの池の回廊に集まっていました。ある時、イエス様は、このベトザタの池で 38 年間も病気で苦しんでいる人を見かけられました。そして、声をかけられました。「良くなりたかいか?」。もし、わたしたちが、38 年間も病気で苦しんでいたとして、このようにイエス様に問いかけられたら、「良くなりたいです!」と応えるのはあたりまえだとも思いません。しかし、この人は、そのようには応えませんでした。「イエスさま、水が動くとき、だれもわたしを水の中に入れてくれる人がいません。だれも助けてくれる人がいないのです! みんな、わたしを見捨てて、自分のことばかり考えているのです!」と不平不満と怒りを吐きだしたのです。この人は「いつも自分は被害者だ」という暗闇の中に自分を閉じこめていました。そして「良くなりたかいか」という救いを求める思いも消え失せてしまっていたのでしょう。

昔、あるクリスチャンの精神科医の方が、「この聖書箇所を読んで、はじめは「みんな良くなりたかいか」と思っていたが、そう思わない人もいないのではないか」とお話になったことが印象的でした。闇に包まれてゆく時、その闇の中に自分を置き続けてしまうことに留まってしまうのです。闇に留まり、光に向かって歩み出さない時、不平不満と怒りだけに包まれてしまうのです。

聖書が語る罪はここにあると思います。罪によって光に向かって歩めなくなってしまうのです。罪と

聞きますと、例えば、人を傷つけてしまったとか、うそをついてしまったとか、自分が犯した表面的な罪、を思い浮かべますが、聖書はもっと人の心の奥にある暗闇を指しています。神さまが与えてくださる恵みの光を閉ざしてしまうようなもの、それが罪といえるでしょう。暗闇に留まっている悲惨な自分の姿をしっかりと見つめず受け入れることができないで、他者を裁き続けて生きてしまうのです。いつも自分は不幸であり被害者であって、他者は加害者だと思ってしまうのです。

「あの人が悪い、この人が悪い、社会が悪い、・・・」そして最後には「神様は自分を見捨てている」と思って自分の殻に閉じこもるのです。

イエス様は、この人に「起き上がりなさい!」と、命じられました。このイエス様の御言葉には、「建物を建て直しなさい」という意味も込められています。自分が今まで建ててきた建物、それがこの人の生き方そのものです。自分の満足を土台にして建物を建ててゆく時、弱い自分に崩れてしまうのです。喜びを失った生き方になってしまうのです。イエス様は、「自分という闇に留まるのではなく、闇から起き上がりなさい!」と命じられました。そして、「自分の問題解決や願いの実現のために、それを土台にして建ててゆく建物を、根本から建て直しなさい! わたしの言葉を土台にして建物を建てなさい!」と言われたのです。

聖書が語る救いとは、自分の生き方、その土台が変わるということです。そして、変わるためには、イエス様の呼びかけにしっかりと応答しなくてはならないのです。被害者的な視点に立って、他を裁いて生きるのではなく、自分自身が深い暗闇あることを知りつつ、イエス様に救いを求め、自分のすべてをゆだね、イエス様の呼びかけに応じて生きてゆく時、救いが見えてきます。「良くなりたかいか」と呼びかけるイエス様の御言葉に答え、「起き上がりなさい!」と命じられる御言葉の力に支えられたいと思います。

(2024 年 9 月 1 日放送より)

## キリストへの時間 トピックス

### 「名古屋高校文学部 俳句甲子園全国優勝！」

「キリストへの時間」協力委員、名古屋学院 名古屋中学・高等学校 大藪博康

#### 「讃美歌は 音の繁栄 夏の蝶」

第27回全国俳句甲子園が今年も松山で行われました。わが名古屋高校文学部は今年で11年連続、この大会に出場しています。今年の夏はなんと全国優勝を遂げることができました。俳句甲子園とは、北は北海道から南は沖縄までの高校生が一つのお題を受けて、その言葉をいれた俳句を作って松山に集まり、俳句ディベートを行うのです。審査員は夏井いつき先生をはじめ有名な俳人13名。予選を戦いぬいて、いよいよ決勝戦。沖縄の強豪校興南高校と闘ったお題は「栄」という言葉をいれた俳句。1チーム5人がそれぞれ俳句を作って、一人ずつ披露していきます。その俳句に対してお互いに批評し合うのです。俳句の出来栄えとディベートのやりとりを審査員が見て、赤白の旗を揚げ、勝敗が決まります。T君が詠んだ俳句が冒頭にあげた句です。T君は「僕の学校はキリスト教の学校で毎週、チャペルで讃美歌を歌わされて、いや歌っていて・・・」とコメントしていました。熱い思いが伝わり、この句に審査員の人が旗を揚げてくれました。この句が全国優勝の

句の一つとしてあったことに、心より感謝した次第です。

毎週「歌わされている」讃美歌ですが、大声で歌う迫力を、夏の蝶の大ぶりの舞いに重ね合わせたのだと、後日T君がこの句にこめた思いを語ってくれました。また、讃美歌の歌詞を見ていると「栄」の字がよく出てくると語ってくれました。確かに讃美歌は神さまの栄光を賛美するものなので、T君の心の中に歌詞がしっかりと刻まれているのだと感動しました。

高校時代に「歌わされている」讃美歌が、将来ふとした時に口元に上ってくることがあると思います。卒業後、同窓会で集まって楽しく宴会を開いたときに、最後は讃美歌を歌って解散しましたと、多くの卒業生から聞いたことがあります。

私は全国大会優勝もちろん嬉しかったですが、それ以上に、「讃美歌」を俳句に織り交ぜてくれたことに言いようのない喜びを感じました。



## 「お便りから伝わるお顔」

この10月よりハガキを郵送する切手代が22円値上がりました。これに伴い、わたくしもすでに購入していた官製葉書（今でもそう言いますでしょうか）のため22円切手を手に入れました。郵送料金の値上げとなった理由の一つに利用数の減少がありますが、たしかに今や電子メール（Email）やソーシャルネットワークサービス（SNS）などの利用が日常化し、ハガキを送ることは「わざわざ」手間暇をかけるような感覚となります。

それだけに、相手へと伝わるもの、相手から伝わってくるものがあります。この点でますますハガキの価値が重んじられる時代が来たのではないのでしょうか。また、「キリストへの時間」へと視聴者の方々からお届けいただくお便りは、これまですべて手書き

でした。これも視聴者の方の表情が見えてくるようで、ありがたく楽しみにしております。申し訳ございません、こちらからの返信はおもに活字で、宛名だけは手書きで記させていただきました。

届くのには数日かかるという時間差も、今となっては貴重なものとなりました。瞬く間に届くメッセージとは違った趣がございます。急がずに、じっくりと相手と向き合う姿勢となります。イエスさまもそのようにわたくしたちが神さまへと向き合うことを望んでおられるのではないのでしょうか、わたくしはそう信じます。

最後にもう一度、「キリストへの時間」協力委員会では、皆さまからのお便りをお待ちしております。

「キリストへの時間」協力委員 八東 清



## 「キリストへの時間」放送予定 2025年1月～6月

### 1月

5日 佐藤 緑（日本キリスト改革派桑名教会信徒） 6日 榮 巖（日本基督教団春日井教会牧師）  
12日 佐藤 緑（日本キリスト改革派桑名教会信徒） 13日 榮 巖（日本基督教団春日井教会牧師）  
19日 木下奈緒子（日本キリスト改革派岐阜加納教会信徒） 20日 横山ゆずり（日本基督教団半田教会牧師）  
26日 木下奈緒子（日本キリスト改革派岐阜加納教会信徒） 27日 横山ゆずり（日本基督教団半田教会牧師）

### 2月

2日 吉松 純（金城学院大学宗教主事）  
9日 吉松 純（金城学院大学宗教主事）  
16日 松谷 曄介（金城学院大学宗教主事）  
23日 松谷 曄介（金城学院大学宗教主事）

### 5月

4日 久保田証一（日本キリスト改革派尾張旭教会牧師）  
11日 久保田証一（日本キリスト改革派尾張旭教会牧師）  
18日 二宮 創（日本キリスト改革派太田教会牧師）  
25日 二宮 創（日本キリスト改革派太田教会牧師）

### 3月

2日 望月 信（日本キリスト改革派多治見教会牧師） 1日 北川美奈子（金城学院中学校宗教主事）  
9日 望月 信（日本キリスト改革派多治見教会牧師） 8日 北川美奈子（金城学院中学校宗教主事）  
16日 松田基教（日本キリスト改革派犬山教会牧師） 15日 北川美奈子（金城学院中学校宗教主事）  
23日 松田基教（日本キリスト改革派犬山教会牧師） 22日 沖崎 学（金城学院高校宗教主事）  
30日 相馬伸郎（日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師） 29日 沖崎 学（金城学院高校宗教主事）

### 6月

キリスト教や聖書についてご質問のあるかた、この放送についてのご意見ご感想のあるかたは、以下にお便りください。また、ご希望の方には新約聖書を無料でお送りいたします。

〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱170「キリストへの時間」まで

CBC ラジオ「キリストへの時間」（1053kHz）毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送  
郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間